

令和6年7月教育委員会定例会会議録

日時 令和6年7月23日（火）

10:00～11:50

場所 役場 第1会議室（1階）

出席者：森田教育長、山下委員、馬場委員
松尾委員、富木委員

事務局：朝長次長、筒係長

1. 出席者の確認 渡邊指導主事欠席（馬場委員途中から出席）

2. 会議録署名委員氏名

山下委員、松尾委員で了承されました。

3. 前回会議録確認

（6月定例会の会議録を確認。）

4. 報告事項

1) 教育委員会

6・7月事業報告、7・8月予定について

（別紙により朝長次長報告）

2) 給食センター

6・7月事業報告、7・8月予定について

（別紙により筒係長報告）

5. その他

1) 第44回全日本学童軟式野球大会高野山全国大会出場について

朝長次長

5ページに、先ほど言いました鴻ノ巣少年野球クラブの長崎県大会のトーナメント表がありましたので付けています。準優勝ということで、和歌山県高野山である全国大会に出場するということでございます。優勝チームは、多分東京の神宮球場ですね。今月26日今週末から大会はあります。

2) 夏休みこども体験講座について

朝長次長 それともう一つ、夏休み体験講座の応募状況をつけています。全部で19講座、右側の人数のところ、上段が募集数、下段が応募数です。20日に行いましたキャンドルは、20人の募集に対して82名の応募があつていす。一番多かったのはピザ体験です。20人に対して101人でした。昨年が一番人気でしたが、とにかく全員受入れようということで、今年も農家レストランの方と話をされて受けられています。夏休み体験講座は、こういう状況でございます。なお、一回目の体験講座としてコンプラ社とタイアップしてキャンドルづくりを行いました。コンプラ社が企画されているイベントへの協力、参加という形で取り組みました。

また、明日24日も別の講座がありますが、先ほどありましたとおり渡邊先生がいらっしゃらない分、職員でカバーしながら、受付・進行等をしてまいりたいというふうに思っています。私の方から以上でございます。

森田教育長 続けて、持ち寄り議題に入りたいと思います。

4. 議題

2) 持ち寄り議題について

森田教育長 以前から、学校のインクルーシブということで、バリアフリー対策について、この場でもお話をしてきました。エレベーター、車椅子対応のトイレ、スロープ設置の三つの施策を、令和7年度末を目途に各学校で設置をしていきたいと思いますという国のインクルーシブ、バリアフリー対策ということで説明してきました。スロープにつきましては、現在の状況で何とかなっていると思いますが、車椅子用トイレ、エレベーターについては、各学校の現状等々を確認しながら、まずはエレベーターについて、中央小の6年生に車椅子該当の児童が1人います。来年度、中学校入学予定です。また、園にも該当する園児がいます。ということもあって、昨年度中学校のエレベーターの設置に関する設計を行いました。そして今年度が工事、次年度東小学校と中央小学校を計画、実施し、最後は南小ということで、最終目途を令和9年度までにエレベーターを設置する計画で、予算化を図っておりました。しかし、そこに書いていますように、国の補助金が私たちが想定していたものよりも、大幅に少ないということが分かりました。エレベーターの工事は7,000万円掛かりますが、それに対して国の補助は900万円しか出ません。全くの私たちの読み込み不足でもありました。国の補助基準は、エレベーター本体だけに対する補助でした。本体事業費が1,800万円なので、その半額である900万円の補助はありましたが、工事全体が補助の対象ではありませんでした。7,000万円に対して900万円しか国の補助が無いということです。予算段階では3,500万円の補助をもらっ

て、町の一般財源は3,500万円を予定していました。ところが、こちらが予想していた補助が来ないと分かりましたので、そうすると財政当局としては大変厳しいということを言われました。同時に、中学校は築50年を超えてくるので、建替えのために基金を貯めていきながら、新築改修をしないといけない。そうなった時に7,000万円掛けた工事はどうなのか、新築の時にエレベーターをつけてれば良いのではないかということになりました。実は、東小も50年を迎えようとしています。南小もですね。だから、ここ10年ぐらいで3校が改修をしないといけない時期に来ている時に、1校当たり7,000万円以上かけてエレベーターをつけること自体が、財政的に大変厳しいという意見があって、最終的に町長決裁でエレベーターについては見直すということになりました。ただ、そうなったときにバリアフリー、インクルーシブの考え方が全く通用しなくなることは非常によろしくない、実際困る子どもがいるわけですね。階を固定する意見もありますが、音楽室や図書館、特別教室に行ったりするわけで、2階3階に上がりますので、その子がいるから2階に上がれない、3階に上がれないことは、逆差別になるので、それは基本的に良いことではありません。では、どうするか。そこで、郡内の中学校で設置している簡易昇降機というものがあります。しかし、これは補助の対象になりませんが、エレベーターがとん挫した今、実際に子供が来るわけですから、その子たちが困ってしまう事態は避けなければなりません。そこで、補助は受けずに、町の単独予算でこの簡易昇降機をつけるという方向で臨時校長会を開いて、その方向でいこうということになりました。今財政の方をお願いをしているところです。実際、来年と再来年の4月に生徒児童が入ってくるので、その子たちの生活を考えた時、補助対象ではなく国が本来求める本来のバリアフリーではないのかもしれませんが、現実的に困る子供がいるのであれば、簡易昇降機を設置して、その子たちの安心安全につなげていく必要があるのではないかということで、町の単独予算の中で執行できないかということとで今、方向転換をして進めているところです。それに関わる資料を付けています。簡易昇降機となると工事の期間も単価もかなり安くなりますので、まずは中学校と東小に該当児童生徒が行きますので、そちらを先にして、来年度に残りの学校でも進め、4校とも簡易昇降機で対応するという方向転換をして、進めていこうと考えているところです。

以上、その他の部分も含め、そして持ち寄り議題等々で何かご意見がありましたら、併せてお願いいたします。

バリアフリーについては、この方向性で良いでしょうか。

馬場委員

金額が上がっていますが、いけそうですか。

森田教育長

今現場を確認してもらって、見積りを行ってもらっています。ただ、防火シャッター等々の絡みがあってというところもあるみたいですが、まず

は子供に負担不安がないようにすることと、エレベーターではないけど安全安心がしっかり提供できる環境が、波佐見町では整備したいと考えています。車椅子用トイレも、現地を確認しながらこれについては予定どおりやっていこうと思っています。

松尾委員 簡易昇降機はどれですか、車いすごと乗れるタイプですか。

朝長次長 車いすごと乗れないタイプです。今年度、エレベーターを7000万円で予算化していて、3500万円補助で、残りの3500万円は一般財源でした。その3500万円の一般財源部分で、簡易昇降機を設置できるだけ設置しようと思っています。

森田教育長 どうしても車椅子ごととなると、かなりの幅を取ってしまうところがあるので、仕方ありません。その該当児童生徒は支援学級籍になると思いますので、当然先生が必ず付いていらっしゃるので、その子が動く時は横に付いてもらったり、あるいは周りの子供たちもサポートとかたぶんしてくれるだろうと思っています。とにかく簡易昇降機で対応することで、必要な車椅子はそれぞれの階に置いていて、その子が乗って行ければ良いのではないかということで、対応できそうだとということで、今その方向で確認をしています。

松尾委員 階段は各校1か所ですか。

森田教育長 見立ては、中学校生徒の玄関がありますが、そこから事務室前の階段と最初思いましたが、そこが先ほど言った防火シャッターがあって、消防法的に駄目となりました。そこではなくて、向こう側に戻るって多少動かなければならなくなるけど、それは仕方ないと思っています。理想は全ての階段で昇って行ければ良いでしょうが、それが出来ないのであれば、車椅子をそこに置いていて、多少移動することは仕方ないことではないかと思っています。だから1階から3階まで自力で行けて、車椅子で移動して、また乗って、車椅子で移動するのは仕方ない、特別教室へ移動する時は仕方ないという話はしています。そちらの方が良いのではないかと方向転換をしています。理想とすれば、エレベーターとは思いますが、確かに本来このエレベーター設置は、校舎を新築する時の附帯施設として付けなさいということではありました。私としてそのバリアフリーという大きな目標の中で、付けないといけないと少し勇み足的なところもあったのかなと、自分の中でも反省はしています。とにかく子供たちを安心安全に過ごさせたいと思うことと、共存共栄の意識も高まっていかないかなあというところもあったので、慌ててお願いをしたところでしたが、財政当局からの指摘があって、最終的に町長の決裁の中で、エレベーターの設置について

は、白紙に戻して代替策ということで、提案を今しているところです。

馬場委員

見方を変えると、以前うちの子供たちのクラスにもそういう障害のある子がいて、結果的には子供たちが物凄く優しいかったですね。その子と一緒に、例えば階段を一緒について上がるとか、やっぱりそういう思いが芽生えるのではないかと思います。この簡易昇降機をつけてしまえば、もうそれを使えば良いとなってしまうかも知れません。以前は無かったから、そういった意味では、子供たちの障害者に対する思いというのは、そこから生まれるから、あれは良かったのなかと思っています。皆その子に対して、障害を持っていると分かっているのに、皆優しく接していたなというのを思い出しました。一つのそれも、皆の勉強だったんだなと思っています。

森田教育長

多分そうだと思います。いろんな人がいて、皆が豊かに自分らしく安心して暮らせる社会を作って行こうとしています。その社会の縮図が学校ですから、学校は多分そういった意味では一番先頭に行っていないといけないところだとは思いますが、そういう点では、形は多少変わったかも知れませんが、まずそれに取り組むことで、今委員さんがおっしゃったように、周りの子供たちも成長していくというか、それはきっと私たちもそういう特別支援をやっていけば、やっていくほど、本人と周りの成長ということも、大きく影響するなという期待もあります。とにかく該当する子供がいるのであれば、その子が、実際に移動するわけだから、2階の図書館に行かないといけない、3階の音楽室に行かないといけないので、その子が自力で行ける環境を確保しなければなりません。そしてそこにサポートする子供たちの存在があれば、バリアフリー、インクルーシブという考え方の教育としては、伸ばせるのではないかなと思うので、ちょっと方向転換しましたが、それはそれでやって行こうと思っています。今財政当局の方にもお願いをして、一般財源として予算化している3,500万円で、2校分3校分は何とかかなかなというところがあるので、まずはその該当児童生徒が入ってくる中学校と東小学校に、まず設置しようとしています。他ございませんか。

松尾委員

すごく暑くて、熱中症の警戒アラートが毎日鳴っていますが、何か外の活動を控えるとかされていますか。

森田教育長

今熱中症計が、各学校各か所に設置していますので、その数値をもって教頭先生が、今日はこういう指数なので、外遊びは禁止ですとか、あるいは10分程度休んだら、皆さん教室に帰ってという指導、指示をしています。部活動等々については、その指数によっては、中止あるいは活動の時間の短縮等というのは行っています。

松尾委員	体育の授業とかできませんよね。
森田教育長	そうです。今回の見直しがあつて、35度云々とかだったら、もう何もできません。
松尾委員	不要不急で外出しないでくださいというアラートが鳴っているので。
森田教育長	学校にも来られなくなります。朝は来られるけど夕方は帰れない。そうになるとスクールバス、スクールタクシーの要請等の話も出てくるのではないかと思います。もう歩かせるも大変だからということでバス移動ですね。そんな要望や意見も出てくるのではないかと思います。
富木委員	夏休みの期間に自宅にいる子、家の中でも熱中症になるような危険な温度ですよ。
松尾委員	子供はクーラーつけると思います。（返ってお年寄りがつけないとの声有）
森田教育長	どれぐらいの子供たちが自宅にいるのか分かりませんが、ただおっしゃったように、もうさすがに我慢できるレベルじゃないので。返ってお年寄りの方が水を飲むのも我慢するし、電気代がもったいないと我慢されるので危ないんだろうと思います。
富木委員	電気代ぐらいのことではないですよ。
森田教育長	だから本当に体育館の空調も、かなりのスピードで今度どんどん設置されていくのではないかと思います。 大型扇風機も学校からの要望がありましたが、音がうるさくて指示が通らないところもあるんですよ。難しくなります。プールでも熱中症が起きています。軽症でしたので、次の日には退院してきましたが。プールでは起きないようなイメージがありますが、案外盲点ですね。水温とか気温との関係で身体に直接当たる関係もあつてのことでした。
松尾委員	皆さん、ちょっと休んでいれば治るだろうと思われていますが、だんだん具合が悪くなるパターンがあります。
森田教育長	その子もそうでした。保健室までは自力で来られたけど、保健所に入ったら意識が弱まって、直ぐ救急車で運んだという感じでした。

松尾委員	もうコロナと全然区別がつかなくなってしまって、コロナ先週波佐見町94名でした。郡内で209名。波佐見が1番、東彼杵が50名、川棚が65名、波佐見が94名、1週間17日水曜から23日火曜まで、その前の週がその半分ぐらいでした。
馬場委員	大人が多いですか、子どもが多いですか。
松尾委員	各年代出ています。1歳から、1歳は波佐見町3人、10代が10人、20代が24人、10代20代と40代50代、この親子ですね。90歳越えは8人、80歳から90歳で30人です。
馬場委員	危ないですね。
森田教育長	10代未満で4割と言っていたのにですね。
松尾委員	その親ですね。あっという間にうつるので。症状はいろいろです。熱が38度39度の人もいれば36度しかできない人もいます。あとは頭が痛い、のどがイガイガする。それが無い人もいます。本当に喉痛くないですかと言っても痛くない、咳も出ない、ただ頭が痛いという人もいます。今朝から熱が出たという方もいます。
森田教育長	診察代、薬代が高いから行かない人もいますよね。
松尾委員	そうです。保険使って1割負担で1万円、私たち3割負担なので3万円です。前は公費だったので皆さんに処方していましたが、子どもたちの熱中症は、防げる分は防いでやりたい。日ごろの食生活と、その時の水分、塩分摂取ということを親に徹底的に言わないといけないでしょう。
森田教育長	今は学校から緊急メールとしては発信ができるので、熱中症対策の呼びかけ、あるいはコロナがまた流行っているので人混みはマスクを着用しましょうとか手指消毒を徹底しましょうとか呼びかけができるので、有効に活用していけば良いのではないかと思います。
山下委員	先ほど各郷の町政報告会を回られて、絆の日についてご意見があったということですが、特に、私自身が保護者の方とか、近くの地域の方とかから、絆の日についての意見は特別何も聞いていません。皆さんは、絆の日について何かお聞きしたことがありますか。
森田教育長	長崎新聞の「記者の目」に今回書かれていまいした。長崎新聞の記者の言い分は、PDCAのマネジメントサイクルでいけば、波佐見町のこの絆

の日の取組は、今その検証の時期ではないか、教育としての理想は分かるけど、保護者の不安、負担がこれだけあるのであれば、もう検証してしても良いのではないかということでした。このこともあり臨時校長会を開きましたが、私自身はまだ検証段階ではないと思っています。今始めてまだ2年目で、やりたいこと、やらなければならないことがもっといっぱいあると思っています。今回、中学生がSDGsの取組をしましたが、この後例えば、今後私たちは波佐見焼振興会に行って、絆の日の期間中、小中学生がどこまでお手伝いができますかというようなことのアクションを起こして、小学生で50人呼び込みが欲しいですとか、中学生100人欲しいですとか、呼び込み役としてお手伝いさせることもできるとしています。もっといろいろなことが出来ると思っています。ただ、今回このように新聞に評価の時期と書かれ、検証をしなければいけないのかなともっています。

横山議員の主訴は、絆の日の主旨は大賛成です。とてもいいと思います。続けてください。ただし、ゴールデンウィークではない時にしてください。もしされるのであれば、受皿をちゃんと確保すべきではないですかということだと思います。

校長会で話をしたのは、まずは続ける。ゴールデンウィークである意味が、絶対波佐見町ではあるはずで、波佐見町だから出来るということと思っています。それでは受皿はどういうふうにしていこうかということで、私たちが考えていることが、学校を開放する。例えば図書館とかを開放して、自由に使ってもらう。支援員さんもしくは先生たちが1人2人ついて見守りをするという学校開放の部分。もう一つは、夏休み体験講座を前倒して、絆の日に行うとかですね。それを学校ごとに行うことで受け皿的なことはできないかと思っています。もっとゴールデンウィークに関わらせていくというアクションの部分と、受皿の部分は学校開放と夏休み体験講座の前倒しで行っていけないかななどを、この前の校長会では話しました。これからも継続して協議します。

松尾委員

それと、事前の周知が全く無かったので、その反発も大きいと思います。去年から始まりましたが、ゴールデンウィークに絆の日って予定に書いてあるけど、絆の日って何？から始まって、誰も何もアナウンスしないまま、休みになるらしいよということだけがバーッと広がってしまったので、親御さんたちはこの間仕事に行かれないと不安につながったと思います。絆の日はこういうことをします、こういうプランですというところが何もなく、ただ休みになるということだけがバーッと広まってしまったので、すごい反発につながったと思います。何で休みになったの？というところが、多分保護者さん皆さんの声でした。去年は特に、また来年もすると？ということは何人の方から私聞かれました。「すると思います。」としか答えられませんでした、それで陶器屋さんは陶器屋さんの言い分があ

ると思います。サラリーマンの方はサラリーマンの方での言い分があるということが、私の周りには何件もありました。知りませんでしたということです。

森田教育長

実は去年の12月には決めていて、年明けた1月からずっと周知はおこなっていました。実際は年度が変わってからではなくて、前年度の3学期からずっと周知は行っていました。もちろんそういった声もあったと思うし、休みが増えたという意識があられるようですが、休みを増やしたのではなく夏休みを前倒していることなので、休みが増えたという捉え方をされているところは整理してもらいたいなと思っています。とにかく休みが増えたという感覚があって、それも一番忙しいゴールデンウィークにという思いがあられると思っています。それを事前の周知等々がないままということもあったらうと思います。保護者の意向や思いや願いや実態をほとんど分からないまま、してしまったというところもあられると思っています。

特に低学年の保護者の方々はご飯のお世話と安全性の部分で、誰が見てくれるの？と不安視されていると思いますが、では夏休みはどうされていますか。夏休みは学童等々に預けることが出来ますが、こういう短期間は学童が受入れてもらえないという理由はあるのだろうとは思いますが。春休みや夏休みの過ごし方とそんなに大きく違うのかなという素朴な疑問があります。

松尾委員

暑い暑いと言われているのに、何で夏休みを短かくするのかという保護者もいます。今はこんなに暑くなったのに、夏休みを短くして、更に絆の日も休みにしてみたいなことを言われる方もいます。だから今から検証をしないのではなく、検証をして、こういう案も出たし、こういうこともやっっていこうと思っている、計画しています、実施します、ということで進めていますということで良いと思いますが。

森田教育長

横山議員もおっしゃった愛知県が行っているラーケーションということで、体験的な活動をさせるということは同じです。それについて、波佐見町では絆の日として一斉に行っています。横山議員は一斉ではなくても個人個人で良いのではないですかと言われています。ラーケーションは基本的には体験や家族の思い出づくりのお休みですが、波佐見町の絆の日は、ふるさと教育に関連しているところがあるし、自立心を養いたいというところがあるので、一斉にしないと意味がありません。休めるとか休めないところもあるし、授業の保障はないし、その遅れについては全部自己責任ですから、デメリットが大きいのではないかと考えています。意義的には面白い取組ではあると思いますが、現実的に今松尾委員さんがおっしゃったように、やっぱり保護者の不安はあるわけですから、その不安の部分に

対してどういうアクションを起こすかというところを、私たちとしても提案していかなければ、良いものが良いものでなくなってしまうところもあると思います。まずやりたいよね、ゴールデンに行きたい、それはふるさと教育との関係よね、それでは陶器祭りにどういう関わりができるのかというところを勉強して、関係団体と交渉をして、どういうアプローチを子供たちが出来ますかということをしていかなければなりません。あるいは、また来年もあるのであれば、家族会議で来年はこんなことをやってみようか、両親のどちらかが休むのもありではないかと思っています。

自分たちで考えて、自分の家庭でどんなことがしたいのか話し合ってもらえれば良いのではないかと思います。実際にご飯のお世話は誰がするんですか、安全はどうするんですかと、確かに不安はあるとは思いますが、熱中症のことを言われたら、どうしようもない部分もありますが、休みが増えたという捉えている方がいらっしゃると思いますが、夏休みの前倒しということで休みは増やしてはいないというところと、私たちの狙い等々もまだ十分周知できていないところと、あと半年掛けて対策の案を練っていきながら、周知を行っていきたいと思います。

馬場委員

なかなか難しいところですね。特に母親としては、実際問題、現実今日はどうするんだというところが多いからですね。長期的に考えて行けば、先ほど教育長が言われたように、ふるさと教育に結びついているということが肝心だと思います。波佐見町の陶器祭りは町の1番のイベントであって、今までやっていて、それに初めて来たという子どももいたわけですよね。やっぱりそれではちょっと申し訳ないというところもあるし、そういった中で波佐見町に自分は住んでいて、波佐見陶器祭りの中で何かをしてきたという、実績づくりもしていただければありがたいと思っています。私もこれをやりましょうということで意見を出しました。確かに周知徹底はなかなか出来ていなかったところはあるとは思いますが。しかし、言われるように長期的な展望に立てば、あの時うちの町では、いろいろな体験をしたとなります。やっぱり子供の時の体験というのは、大人になってから、自分が子供の時にこういう体験をしたとなります。祭りで踊ったとか、あそこで何をしたとか、キャンプをしたとか、そういったものはすごく残ってきます。そこら辺の思いを、絆の日の期間だけでも親子で共有してもらいたいと思いますので、言われるように家庭の中で話をして、そういったところを汲み上げていくことをしていただければありがたいと思っています。

いろいろ意見は出てくると思います。やっぱりなんでもスムーズに行かないので、私たちはそういった意味で、長い教育という感覚で考えていないと、そういったちょっとしたところではなくて、教育長が言われるように長期的な視点で行った方が良いのではないかと私も思っています。ずっとそれを取り組んでやってきましたので、非常に思うわけです。ですか

ら、またいろいろ言われているなあと思いつつ、そういうことが結構今までであったので、しかしそれはそれで、良い機会ではないかなと思っています。けど、いろいろ企画をするのは大変ではありますが。

森田教育長

山下委員はどう思われますか。

山下委員

私は絆の日はあっても良いかなと思います。最初聞いた時は、陶器関係なので、子供がもし小さいかったら、誰に預けようかなあとも思ったとは思いますが、多分陶器祭り会場に連れてきていたと思います。私が子どものGWの休みの時は、小学1年生の時からずっと箸置きや小物を作り販売し、それをお小遣いとしていました。陶器まつりとの関わりをずっと小学校の間はさせてきたので、他の陶器会社のところはそういうところまでは無かったと思いますが、子供に何かを体験をさせたいなということでした。多分そういうことを何も思わなかったら、子供をどうしようかなといろんなことを考えたと思います。でも逆に、発想を変えて、一緒に連れてきて販売の手伝いをさせようかなとか、何か作って販売してみらんねとか、言っていましたので、やっぱり波佐見町ならではのふるさと教育の経験というのは、陶器祭りがあるからできるのかなと思います。

今回中学生が、掃除をしたりとかごみを拾ったりとかしている姿を見て良いことをしていると思うので、陶器まつり会場内で中学校ブースを置くことがもし駄目だったら、講堂を利用して講堂に子供たちを集めてそこで何かをするとか、そこから会場まで行って、ごみ拾いをして回るとか、拠点に講堂に変えても良いのかなと思います。講堂で何かイベント、販売でも良いですし、体験講座の前倒しとおっしゃったので、そういうところで活用をされても良いのかなと思います。

森田教育長

私たちも、講堂をもっと絆の日で有効活用できないかなということも思っています。一つの例として、波佐見高校美工科の生徒の作品展を講堂でできないかなとも思っています。25万人の方が来られるので、波佐見高校のアピールにもなるので、もっと講堂をうまく利用できないかなとも思っています。また、おっしゃったように、何かそういう子供たちのアクションの拠点的なものにするとか、もっと子供たちに関わらせたいという思いがあります。山下委員さんがその話をされた時に、自分が現場にいた頃は有田がやっていたので、もっと積極的に子供たちがこの陶器祭りに関わっていけば良いのになあと思っていました。多分農家のところは、田植えや稲刈りとか体験したりするから休み、祭りがあるところは祭りに出るから休み、とても素敵なことだと思います。特におっしゃった南の子どもたちはほとんど関わっていない。南の子どもたちはどんな関わり方ができるんだろうというところで、もしかしたら、小中学生がやきものを例えば100個ずつもらってきて、南地区でテント販売するとかいうのもあって

も構わないと思います。南地区で自分たちで何が貢献できるか、アイデアをどんどん出して実践してもらいたいと思っています。こういうまだ実践段階だと思っていますが、あれだけ新聞に書かれてしまうと、やっぱり検証というのをやらないといけないんだどうなあとと思っているので、今年は検証をして、新たなアクションというのを出さないと、保護者の方の不安、不満等々が大きくなっていく可能性は確かにあるだろうとも思っています。

富木委員

確かに、学童の開設者のお寺さんから、受け入れが大変だと言われました。ですから、今のお話を、教育長自ら、主旨、狙いを周知していただいて、我々も一緒になって周知して行かなければいけないかなと思います。そして今聞いた山下さんの話ではありませんが、30年ぐらい前、ある陶器会社の社長さんが、小学校の時に店頭に立ってそういったことをされていたという話を思い出しました。今の会長さんが、自らのお子様が小学校の時からそういった経験をさせておられたのかなということ思い出しました。けれども、全体でそういったことができれば、良いのかなと思いました。

馬場委員

絆の日の意味辺りを、もっとちゃんと学童さんに言うておけば良かったのかも知れませんが、そこら辺りがちょっと足りなかったのかなとは思いますが。確かに、小さい子供たちの対応を考えなければいけなかったところはあると思います。ある程度大きい子どもはスポーツなんかやっている子どももいると思うし、そこら辺りをちょっと本当考えなければと思います。

松尾委員

学校を開けるということはとても良いことだと思います。それが出来れば、恐らく皆さん安心していただけたと思います。

森田教育長

だから私たちの理想とすれば、それこそ町政報告会で、町長が言っているVUCAの時代、自分の力で、自分の頭で考えて、自分で切り開いていかなければならない、お父さんお母さんをいつまでも頼ってられないよというのがVUCAの時代です。自分で考えて、自分で行動できる子供の育成となれば、絆の日はどういう過ごし方をしようかということを家族で話し合っ、それをするというのが、絶対大事なことだと思います。「はなちゃんのみそ汁」のお話があるじゃないですか。お母さんが亡くなるということが分かっている、保育園入学する前にご飯の作り方を教えている、僕はそういうのが学びではないかと思っています。出来ない出来ないではなく、教えれば良いことだと「はなちゃんのみそ汁」では教えてくれます。そういうところの学びも含めて、絆の日はあっても良いのではないかと思います。絆の日があるので、今日は1日ご飯の炊き方、みそ汁の作り方は教えるけんねって言うて教えて、その子がその期間をご飯とみ

そ汁を作れば、絶対その子は成長するし、ご飯とみそ汁をお父さんとお母さん食べさせたらめっちゃ感動的な場面がそこにあると思います。そういった膨らみというか、発展形が絶対あると思っているので、出来ないというのではなく、やらせてみれば出来るようにならないかと思っています。だから家族で話し合いをして欲しいと思っています。絆の日は、どんな過ごし方をして欲しいのか。子供がしたいって言うのか、親としてさせたいと思うのか、そのためにこんな準備をしないといけないとかいうこともきっと出てくると思います。そのための絆の日になったら良いだろうと理想だとは思いますが、それを求めています。お世話は誰がするのか安全面はと言われると、そこを何とかケアする必要があるところを、検証をしていきたいと思っています。

他に無ければ8月の定例会の日程を決めて終わしましょう。

【日程調整】

それでは、8月は23日金曜日の10時からということでお願いしたいと思っています。それでは、以上をもちまして7月の定例教育委員会を終わります。お疲れさまでした。ありがとうございました。

※次回定例会予定 令和6年8月23日 10時00分から
役場会議室

令和6年7月23日教育委員会定例会会議録署名	
署名 委員	山下 祐子
	松尾 保子